

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実践報告書

- 1 学校名：横浜市立大正小学校

- 2 実施日時：2019年9月24日（火）10：40 - 12：15

- 3 対象：全校児童 543名

- 4 派遣講師：西山 麗さん（北京オリンピック 女子ソフトボール 金メダリスト）
清原 那侑さん（日立ソフトボールクラブ サンディーバ）
倉本 美穂さん（日立ソフトボールクラブ サンディーバ）
小菌 美希さん（日立ソフトボールクラブ サンディーバ）
鈴木 由香さん（日立ソフトボール部 強化・普及担当）

5 授業内容：ソフトボールの実演とオリンピックによる講演

2019年9月24日（火）に、横浜市立大正小学校にて、女子ソフトボール元日本代表の西山さんをはじめ、日立ソフトボールクラブの清原選手・倉本選手・小菌選手らによるソフトボールの実演と講演が行われました。実技を披露するにあたり、校長先生や日立ソフトボール部の鈴木さんから、選手らの経歴やソフトボールという競技についての説明をしていただきました。

選手らがキャッチボールやバッティングを披露し、途中、代表児童らが選手とキャッチボールを行いました。代表児童から、「ソフトボールのことは知っていたけど、あんなにたくさんの投げ方があるとは知りませんでした。球も迫力があってとてもすごかったです。これからも頑張ってください。」とお礼の言葉が贈られ、ソフトボールの面白さや奥深さを大いに実感したことが伺えました。

実技のあとは、体育館にて5・6年生の児童を対象に、西山さんの講演が行われました。西山さんは、子どもの頃から心臓に病気を持っており、本当は運動もしてはいけないと言われていたそうです。しかし、そのような環境でも、常に自分の体調と向き合い、自身で運動強度を考えながら運動をしていたといいます。人のせいにはしたくない・言い訳をしたくないという強い気持ちから、小さい頃から自分で考えて判断をするということを心がけてきたそうです。そして、中学校時代には、7時間にも及ぶ大手術を経て、その後は社会人ソフトボール部に入部、ついには日本代表選手に選ばれるまでに活躍を遂げました。

代表選手に選ばれるまでも、様々な困難があったそうで、小柄な体型でも代表を勝ち取るためには、自身の得意分野である投球を磨いて武器にしていこうと考え、日々練習に励んだといいます。代表に選ばれるまでには、強い心や信念を持ち続けなければならない、相当な覚悟が必要であったこと、ソフトボールの代表である以前に、人としてしっかりしていなければならないことなど、多くのことを学んだそうです。大変な困難もたくさんあったそうですが、自分が活躍することで、自分と同じように病気を持っていたりする子どもたちが、少しでも勇気や元気を持ってくれたら嬉しいという気持ちがあったため、頑張ることができたそうです。最後に西山さんから、夢中になれるものを見つけることはとても大切なことなので、様々な挑戦をして夢や目標を見つけ、頑張り続けてほしいと、子どもたちにエールを送っていただきました。

6 実践の様子



西山さんと日立ソフトボール部の選手たち



キャッチボールの様子



代表児童らとキャッチボールを通じた触れ合い（子どもたちが取りやすいよう、やさしくボールを投げていただきました。）



多様な投球を披露している様子



バッティングの様子



代表児童からのお礼の言葉



西山さんの講演会の様子